

## 女子学生の季節別色彩嗜好に関する傾向分析

○庄山茂子\* 青木迪佳\* 今岡春樹\*\*

(\*長崎県立女短大, \*\*奈良女大生活環境)

【目的】自然界の樹木や草花は、四季折々にその色彩が移り変わり季節の訪れを知らせてくれる。しかし、今日の豊かな住環境や食生活のなかでは季節感というものが次第に失われつつある。本研究では、色彩嗜好と服装の色彩嗜好が季節の影響をどのように受容しているか調査することを目的とし、女子学生に四季を通して同内容の色彩調査を実施し、比較考察した。

【方法】同一女子学生76名を対象に1994年4, 7, 11月, 1995年1月に質問紙法による面接調査を実施した。調査に用いたカラーチャートはJIS色票75色である。質問項目は、快い色, 不快な色, 今の季節を感じる色, 好きな色, 嫌いな色, 服装にとりいれたい色である。それぞれのイメージについては、20対の形容詞を用いSD法による5段階尺度で評定を求めた。分析は、単純集計, クロス集計, 因子分析の手法を用いた。

【結果】①四季を通して快い色については1位に白, 不快な色については1位にビビッドのバイオレットをあげ季節間の有意差は認められなかった。②今の季節を感じる色については、春はペールトーン, 夏はビビッド, ライトトーン, 秋はディープ, ダルトーン, 冬はダーク, ライトグレイッシュトーンをあげ季節間の差異が認められた。③好きな色, 嫌いな色, 服装にとりいれたい色について、季節-色相, 季節-トーンのクロス集計の結果, 好きな色, 服装にしたい色について季節-トーン間に差異がやや認められた。④好きな色, 嫌いな色のイメージについての季節間の有意差は認められないが、服装にとりいれたい色についてのイメージプロフィールおよび因子分析の結果季節間に差異がやや認められた。